

ニシマカジキ 大西洋

White Marlin *Tetrapturus albidus*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

生物学的特性

- 最大体長・体重：下顎叉長 205 cm・67 kg
- 寿命：不明
- 性成熟年齢：不明
- 産卵期・産卵場：春、熱帯域
- 索餌期・索餌場：夏、温帯域
- 食性：おそらく魚類、イカ類
- 捕食者：大型歯鯨類、マグロ・カジキ類等が小型個体を捕食すると考えられる。

利用・用途

刺身、寿司、切り身（ステーキ）、マリネ等

漁業の特徴

本資源を主対象として漁獲している漁業は米国、ベネズエラ、パナマ、ブラジル等のスポーツフィッシングとカリブ海諸国やアフリカ西岸諸国の沿岸零細漁業であるが、漁獲量の大部分は台湾、日本、ブラジル等のはえ縄漁業の混獲によるものである。近年、ベネズエラ、トリニダード・トバゴ等のカリブ海諸国やブラジルの零細漁業の漁獲の割合が多い。近年、本資源の外見に極めてよく似たラウンドスケールスピアファッシュ (*Roundscale Spearfish Tetrapturus georgii*) という新種の存在が確認され、ニシマカジキの報告漁獲量にこの別種の漁獲が含まれていることがわかった。現在までのところ、ICCAT のニシマカジキの漁獲統計はこの 2 種と一緒に計上している。

漁獲の動向

本資源の漁獲の大半は、はえ縄漁業によるものであり、1980 年代半ば以降は南大西洋での漁獲が、北大西洋を上回っていたが、2010 年からは北大西洋の漁獲量がやや多くなっている。本種の総漁獲量は 1960 年代に約 5,000 トンまで達した後、1970 年代に 2,000 トン前後に急減し、2000 年までの間に 1,000～2,000 トンの間で推移した。その後総漁獲量は緩やかな減少傾向を示し、2009 年までには 600 トン前後で推移したが、2010 年以降再び減少し、2020 年は暫定値で 168 トンと報告されている。日本の漁獲量は、1990 年代前半では 100 トンを上回っていたが、それ以降減少を続け、近年の漁獲量は 8～12 トンであり、2020 年は 9 トンであった。

資源状態

資源解析はベイジアンプロダクションモデル (JABBA) と統合モデル (SS3) を用いて実施された。漁獲量に対する不確実性を反映するために、SS3 を用いた解析では、投棄・放流をモデル内で推定するシナリオ（モデル 6）と、提出された漁獲データのみを使用するシナリオ（モデル 7）が使用された。資源評価の結果、本資源はこれまで高い漁獲圧を受けてきたが、現在は漁獲圧も減少し、現在の漁獲死亡係数の水準は最大持続生産量 (MSY) レベルよりも低くなっている。一方、資源量はいまだに MSY レベルよりも低くなっていると考えられる。以上の結果から、資源量は、MSY を下回っている可能性があるものの、漁獲量は減少しているため、資源水準は低位、資源動向は増加と判断される。

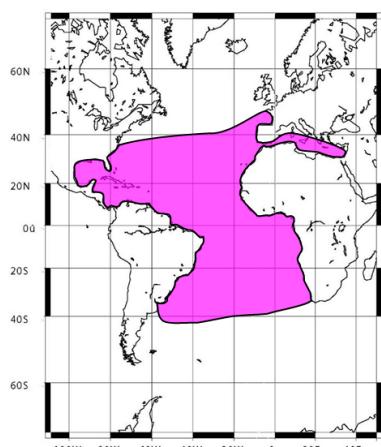
管理方策

2019 年に行われた資源評価結果を受けて、大西洋のニシマカジキ資源に対しては、2020 年以降の毎年の陸揚げ限度量を 355 トンとすることが合意された。日本の割当量は年間 35 トンである。また、生きて漁獲された個体をできるだけ放流後の生存率が高くなるように放流することが勧告されたほか、資源解析・評価の実施に当たって問題となつた生存放流及び死亡投棄個体数の各国の推定方法の SCRS による検証、スポーツフィッシングについてはオブザーバーの乗船（カバー率 5%）、サイズ規制と売買の禁止が勧告されている。

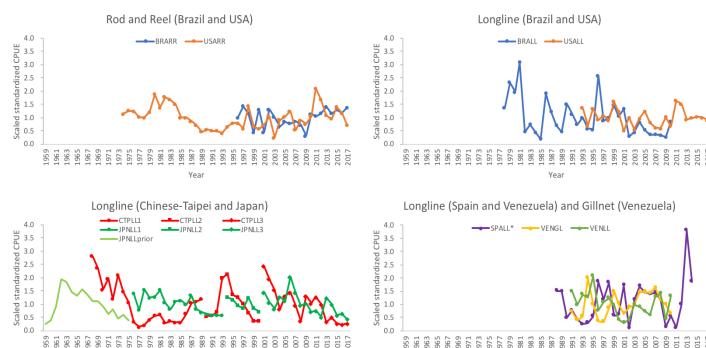
ニシマカジキ（大西洋）の資源の現況（要約表）

資源水準	低位
資源動向	増加
世界の漁獲量* (最近5年間)	168～458トン 最近(2020)年: 168トン 平均: 314トン(2016～2020年)
我が国の漁獲量* (最近5年間)	8～12トン 最近(2020)年: 9トン 平均: 9トン(2016～2020年)
管理目標	MSY
資源評価の方法	JABBA 及び SS3
資源の状態	2017年の資源量は MSY レベルより低い ($B_{2017} < B_{MSY}$) 2017年の漁獲圧は MSY レベルより低い ($F_{2017} < F_{MSY}$)
管理措置	2020年以降の陸揚げ限度量を355トンとする(日本の割当量は35トン)。 スポーツフィッシングについてオブザーバー乗船(5%)、サイズ規制、漁獲物の売買禁止。
最新の資源評価年	2019年
次回の資源評価年	2025年

* 漁獲量には、いずれもラウンドスケールスピアファッシュの漁獲が混入していると考えられる。

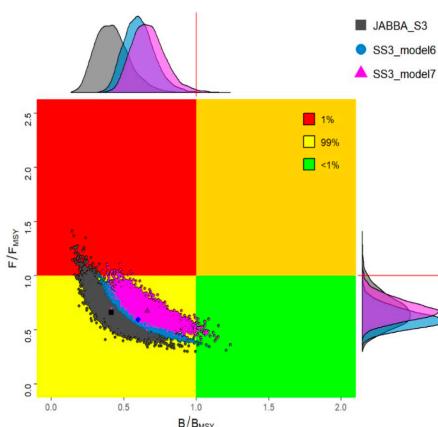


ニシマカジキの分布



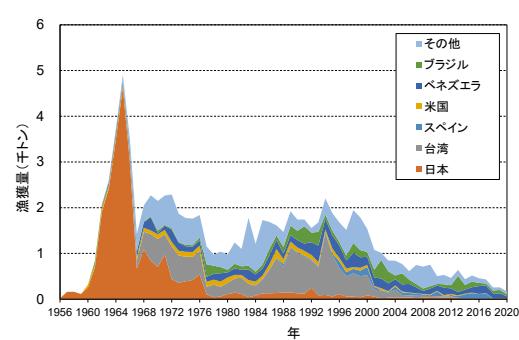
資源評価で用いられた漁業別資源量指標

EU スペインのはえ縄の指標(紫色実線)は、感度解析のみに使用された。また、JABBA のベースケースモデル(モデル S3)は、1959～1961年の日本のはえ縄 CPUE を使用していない。

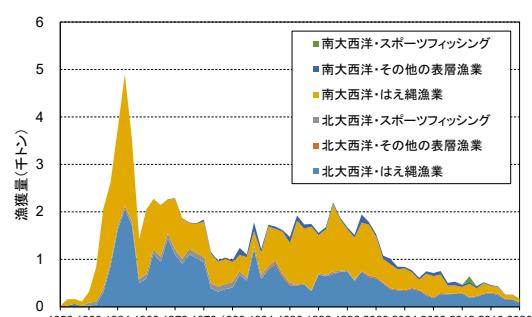


資源評価結果(神戸プロット)

資源評価の結果として、JABBA の S3 モデル(1959 年から 1974 年までの日本のはえ縄 CPUE を使用していないモデル)と SS3 のモデル 6(投棄した漁獲をモデル内で推定した結果)及びモデル 7(投棄した漁獲を推定していない結果)が合意された。本資源は、資源量は乱獲状態にあるものの、漁獲圧は基準値 (F_{MSY}) を下回っており、乱獲は発生していない。



ニシマカジキの国・地域別漁獲量(1956～2020年)



ニシマカジキの海域別・漁法別漁獲量(1956～2020年)